

ハンガリーのスウェーデン NATO 加盟容認 (553号)

2024年 2月 石館

ハンガリーのオルバン首相は1月24日、NATO へのスウェーデンの新規加盟を容認する考えを表明した。NATO 拡大には既存の全加盟国の承認が必要で、最後まで慎重だったオルバン氏の動向が注目されていた。



ハンガリー、果たしたロシアへの義理 スウェーデンのNATO加盟 ...

ハンガリーのオルバン首相

小生はハンガリーがソ連邦内の一国である頃の1970年代から、同国に何回も足を運び、1980年代の後半には西側の国として初めてハンガリーとの合弁会社を立ち上げた。

ハンガリーを最後に訪れたのは2002年だったと思うが、それまでに通算30回以上訪れている。ハンガリーは親日国で、ハンガリー国立フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者は小林研一郎だったこともある。

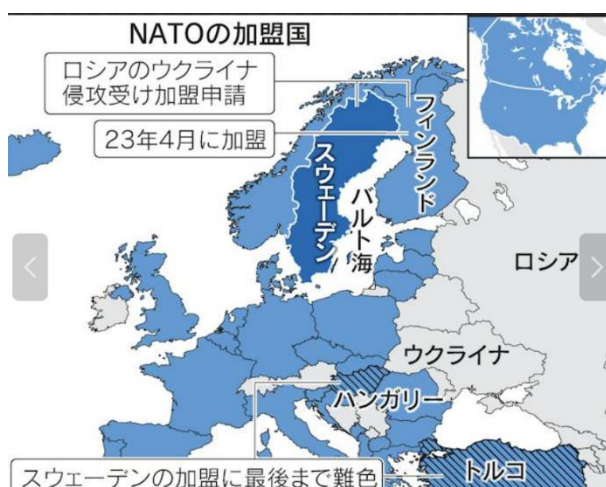


ハンガリーのネーメト首相の来日の際の歓迎パーティで。決断力と実行力のある立派な男であった

1989年東欧革命の号砲となったのは、5月に始まったハンガリーによる、オーストリア国境の開放であった。これは小生とも一時

親交のあったハンガリー首相のネーメトが密かにオーストリア側と交渉を進め

た結果であった。これを知った東独国民はハンガリーを経由して西ドイツに亡命しようと多数押し寄せ、夏までに20万人規模になった。



首相ネーメトは密かに西ドイツのコール首相を訪ね、難民の受け入れの了解を取り、9月10日正式に東独難民のオーストリアへの出国を認めた。その日東ドイツでは反体制グループ“新フォーラム”が結成され、意思決定能力を欠いた東独のホーネッカー政権に対する反政府運動を開始、それがベルリンの壁の解放と、東独消滅の引き金となった。このハンガ

リーの積極的な国境開放は、ハンガリーが西側諸国に入ることを強くアピールするためのものであった。

このように東欧革命の先陣を切りその流れに多少とも貢献したことからハンガリーに小生は深い思い入れがあり、現在の権威主義的な統治に近いオルバン政権に対し残念な思いがある。

ハンガリー政府は突然スウェーデンの NATO 加盟を支持すると発表。議会に早かに承認手続きを終えるよう求める考えを示した。

ハンガリー議会は2月中旬ごろ召集され、同月中にも承認に至る可能性がある。スウェーデンは32か国目として NATO に加わることになる。

ハンガリーの突然の方針転換は、欧州に軸足を置きながらロシアにも接近してきたオルバン氏のバランスが外交の一環と位置付けられる。しかし、もはやこの問題が NATO や EU に対する交渉のカードとして使えなくなったとの判断があったとみられる。また凍結されていたハンガリーに対する EU の補助金は魅力のあるものである。

事実欧州議会では EU や NATO 加盟問題でハンガリーのような“ごね得”を排除するためすべての加盟国の同意という条件を改定し、70%の国の同意あるいは多数決ということに、変えようとする動きも出てきていた。

今までオルバン氏は加盟国としての拒否権を EU や NATO との交渉にフル活用してきた。2023年12月にはウクライナの EU 加盟交渉の開始を容認する一方、民主化後退の懸念から凍結されてきたハンガリーへの一部の EU 補助金の支給を勝ち取った。

このまま加盟問題で抵抗を続ければハンガリーに対する欧州内の風当たりだけが強まることが想定された。実際、欧州各国の首脳は“我々の忍耐はもう限界に来ている”と立ちをあらわにしていた。1月23日にトルコ議会がスウェーデンの加盟を承認し、ハンガリーが未承認の最後の国になったこともオルバン氏の方針転換を後押しした。



トルコのエルドアン大統領とオルバン首相

今回プーチン氏と強い信頼関係を持つエルドアン氏も加盟問題で容認に転じた。これによりバランス外交で同氏の弟分と目されるオルバン

氏が抵抗をやめてもロシアに対する義理は果たした格好になった。

オルバン政権は国民の支持を受けておりこれからも暫く政権の座にあることが予想される。今後ともオルバンは拒否権を使うことが考えられ、また第二、第三のオルバンが出てくることもあり得る。何か決める場合重要度によって加盟国の全会一致が求められるが、この全会一致条件を早急に変える必要があるのではないか。

ロシアのウクライナ侵攻を受けて同時に加盟申請したフィンランドに続き、スウェーデンが加われば、軍事面でも重要な海上交通路のバルト海が NATO 加盟国で囲まれる。バルト海から繋がるフィンランド湾にはロシア第2の都市で戦略的要衝であるサンクトペテルブルグが面する。

バルト海はロシアと大西洋を結ぶシーレーンでもある。スウェーデンは世界屈指の潜水艦部隊を持つ。ロシア軍の活動には大きな制約となりうる。NATO 関係者は日本の新聞社の取材に対し“オルバン氏やエルドアン氏の駆け引きは終わりだ。遅すぎたくらいだ”と述べた。7月のワシントンでの NATO 首脳会議は32か国体制で開催となるであろう。